第３回川口市青少年問題協議会　議事概要

■　日時：平成２９年３月１０日（金）１０時～１１時４５分

■　場所：議会棟３階　第３委員会室

■　出席委員（敬称略）：栗原会長、谷口副会長、若谷委員、芝﨑委員、
　　　　　　　　　　　舩津委員、中牟田委員、立花委員、小柳委員、
　　　　　　　　　　　樋田委員、須賀委員、新木委員

■　事務局：福田子ども部長、日髙青少年対策室長、立花室長補佐、内田主査、
　　　　　浅井主任

■　次第：議題

　　　　（１）「平成２７・２８年度川口市青少年問題協議会の報告と提案」
　　　　　　について

　　　　（２）その他

■　傍聴人の数：０人

■　会議資料：平成２８年度第３回川口市青少年問題協議会資料

１．開会

２．会長あいさつ

３．本会議について

〈　委員の半数以上の出席により、会議が成立する旨確認　〉

〈　会議は公開であり、本日は傍聴者がいない旨確認　〉

〈　会議録を作成、公開する旨確認　〉

４．議事

〈　会長が議長となり、事務局から議事進行役を交代　〉

【議長】

本会議の会議録を作成するため、会議録署名人を立花委員、須賀委員にお願いする。

〈　委員承認　〉

（1）「平成 27・28 年度川口市青少年問題協議会の報告と提案」について

【議長】

今後の活用について、完成した報告書を青少年団体をはじめとして学校にも配布を予定しているが、どう思うか。

【委員】

子どもは未来の宝であり、地域の皆さんが温かい目で見守って欲しいと、よく言っている。周知の方法としては、日常、学校に周知して、そこから保護者に伝えていくことになる。掲示物や口頭で。職員玄関などは、ほとんど見ていないので、目に止まるところに掲示物を貼るなどして地域や保護者に周知できれば、広がっていくのではないかと思う。学期ごとに催し物もあるので、1 学期に 1 回でも周知できればと良いと思う。

【議長】

夏休みなどを利用して、先生方に周知することは難しいか。

【委員】

周知先としては、学校が相応しいと思うが、問題はこの内容のうち、何を周知するかということ。学校ごとに事情も違う。冊子を配るのは簡単だが、内容について理解を深めてもらうことは難しい。

【議長】

何を周知するかを含めて、具体的な議論に入っていきたい。報告書は、「報告」と「提案」の２つに構成されている。これまでの会議で議論を重ねてきたものを「提案」として、３つのテーマに分けてポイントを絞って発信していく

ものである。前回、３つのテーマとその下にある提案については、皆様からご了解をいただいているので、今回はさらにその下の「◆」の項目と、皆さんの会議での発言をまとめた網掛けの要約について、ご協議いただきたい。

【委員】

青年リーダーを取りまとめ、地域を巻き込みながら、これらの提案を実施するというのが、どこが主管するのか、明確にする必要がある。学校だけにお願いすると、地域が抜けてしまう。

【青少年対策室長】

提案に対してどう取り組むのか、ということについては、地域と青少年の関わりがテーマであり、町会・自治会をはじめとした地域や育成協議会、青少年団体などが中心になるものと思う。

【子ども部長】

青少年の健全育成は行政だけでは困難であり、地域の協力が不可欠。では、イニシアチブをどうするかという点では、子ども部青少年対策室が中心となって、各学校や地域、団体に働きかけていくことになる。

【委員】

地域の受け皿はどこになるのか。地域と行政や学校をつなぐ、核となる人物、コーディネーターがいなければ、報告書を配布しても何も進まない。

【子ども部長】

実際に主体的に活動している方を行政が人選して、積極的に働きかけていく必要があると思う。

【議長】

誰がどう実施していくかは、今後青少年対策室で考えていただくとして、テーマが、青年リーダーと地域の関わり合いとなっている。地域と関わり合いを持つ上で、青年リーダーをつなぐコーディネーターがいないと難しい。今回、実際に青少年対策室が動いてコーディネーターとなり、南平公民館で青少年育成協議会、青少年相談員と中学生などの青年リーダーが協力してクリスマス会を実施しましたので、報告をお願いしたい。

【青少年対策室長】

クリスマス会説明

【委員】

南平公民館地区の育成協議会はそもそもどれくらい活動しているのか。

【青少年対策室】

年 3～4 回程、事業を実施している。

【委員】

今回、育成協議会の参加者は、1人だったのか。実際に育成協議会がどれほど機能したのか、知りたい。また周知したのは育成協議会なのか、学校などのチラシなのか。

【青少年対策室長】

周知はチラシや公民館報を使用し、公民館で実施している。これまでも実施していた行事の1つなので、地域の人たちは知っていたものである。

【委員】

毎年やっているクリスマス会を今回は、青年リーダーがやったと言うことで良いのか。

【青少年対策室長】

足りていないところを室が入って今回は補った形となる。

【委員】

青年リーダーたちを支える地域の突出したリーダー、様々なつながりがある人が必要となってくる。

【議長】

青少年育成推進員という県知事から委嘱を受ける方々は、学校とも地域ともつながっているといえるが、青少年育成推進員はどう関わっているのか。

【委員】

青少年育成推進委員は、公民館地区からの推薦で活動しており、個人の活動を推進員期待することは難しい。元々、青少年育成推進員は、地域の環境浄化のために委嘱されていたものであり、夏の非行防止パトロールや小中学校を訪問して話を聞く程度の仕事しかしていない。いくつか役を兼ねていれば、学校などに入っていきやすい部分がある。青少年育成推進員については、学校側にあまり理解されていない。ご挨拶に行ってもお付き合いがないという現状である。

【議長】

青少年育成推進員は環境の浄化等を目的に、県から委嘱を受ける方々であるが、青少年の健全育成のために夢や生きがいを持たせると言うより、非行の芽を摘み対処する役割が主である。

【委員】

保護者や先生と違い、非行の芽を上流で止めるような役割を果たしている。

【委員】

今回のクリスマス会の参加者の声を見ると、中学生の声で、“子どもが喜んでくれた、楽しんでくれた”とあるが、そのような思いを感じて、青年リーダーや中学生が自分の存在価値を見出せる。そこが、カギではないか。やはり行政の力が必要。民間だと出すぎてしまってハレーションを起こしてしまう。ど

こがイニシアチブをとってくれるのかによって、コーディネーター等の活躍の場が増えていく。

【議長】

青少年育成協議会という組織はあるが、コーディネーターはいない。青少年育成推進員の活動はどうなっているのか。

【青少年対策室長】

現時点では、推進員が自発的に活発に活動するということはないが、今後積極的に地域や学校に関わっていただければと思う。県の委嘱ではあるが、川口市でも推進員の協議会を設けているので、そこで周知はできると思う。

【委員】

旧鳩ヶ谷市には、市民会議があり、小学校６校区で、100 人以上の色々な団体の方が参加しており、推進員としても活動の場が多かった。

【議長】

続いて、地域との関わり合いについてはどうか。青少年育成協議会や推進員をはじめとした地域と子どもたちとの関わりにより、南平公民館でクリスマス会ができたこと、これをモデルとして、他の地域に広げて行くことを考えていきたい。報告書の３つのテーマと提案、構成等について、ご意見をいただきながら、報告書として作成するにあたり、文言の削除や変更が望ましい部分など、気づいたことをご意見いただきたい。

【委員】

テーマ３のカッコ内に「おやじの会」とあるが、これは PTA の中の会なので、PTA も入れた方が良いのではないか。また、「トップのあり方」という文言は削った方が良いと感じる。

【委員】

育成協議会の組織は学校とは違ったものがある。けれども学校の組織なのでこれだと今までと関わらない。学校から離れて組織連携があると良い。

【議長】

つまり、3 者が力を合わせる。中高生を生かしていくには学校を介して、他の団体の参加は別の項目立てを作った方が良いのではないか。学校も一緒の協議の場、話し合いの主体。あいさつは大人からと、もうひとつ掛かっている。あいさつは、必要。保護者から大人からするもので良いか。

【委員】

こちらのあいさつの仕方ひとつで、保育園や小学校に歩いていく子が、「おはよう」と言うと「おはよう」と返してくる。大人がきちんとすれば、きちんと返してくる。

【委員】

この報告と提案は配布するのか。
【青少年対策室長】
今の段階では、これに基づき構成し直したものを配布していく予定である。
【委員】
文字が多いと、今の時代、どれだけ見てくれるか。ある程度集約してパッと見てわかる資料の方が良い。また、地域性によって難しさはあるが、文言は前向きなものに変えた方がよい。相手が違和感を覚えた時点で、協力が得られなくなるので、ポジティブな表現にすべきと思う。
【議長】
文言はポジティブで前向きな言葉に変えるとの意見があった。他のテーマについてはどうか。
【委員】
テーマ２の最後に、「多様な青少年への働きかけ」とあるが、市内では外国人が増えており、子どもの居場所が現実的にない。親のネグレクトによって家にいられない子もいる。青年リーダーに子どもたちのケアができれば、居場所づくりができるのではないか。
【青少年対策室】
青年リーダーの人数は増えてきているが、彼らが問題意識を持つまでには至っていない。今後は、そういったことも考えていきたい。
【委員】
イベントは、その時その場に来る人しか援助できない。青少年育成を青少年対策室でしっかりと取り組んで欲しい。
【議長】
「非行少年」という表現についてはどうか。そもそも、非行少年とはどのような少年のことを言うのか。
【委員】
警察では、罪を犯した犯罪少年や、喫煙や深夜徘徊などをした不良行為少年のことととらえている。我々が考えているのは、刑法犯である。
【委員】
「◆」の後ろにつけているカッコ内の文言は不要ではないか。
【議長】
カッコ内の文言は、その後の皆さんの発言をまとめた文章で表現すれば良いので、省略することとする。
【委員】
テーマ２の「青少年に更なる活動の場を与え」とあるが、どちらかと言うと既存の活動ではないか。

【議長】
「青少年が様々な活動の場において」という形に修正する。
【委員】
教育の中に、子どもたちの自立を見守るという趣旨があると良いのではないか。
【委員】
様々な活動の場において、青少年の意欲と主体性を「育てる」のではなく、「育つ」ではどうか。
【委員】
「PTA 連合会」となっているが、「PTA」だけの方が良いのではないか。
【議長】
それぞれの学校に PTA があるので、「連合会」は取る。幼稚園、保育園からの下地作りもあるのかと思う。
【委員】
小中学生についての内容が多い。小中学生だけではなく、高校生や大学生に関する内容にも触れた方が良いのではないか。
【委員】
やはり「◆」のカッコ内の文言は削除し、限定しない方が良い。
【議長】
また、PR も足りないと考える。小学校入学前の保護者に主体的に働きかけていくのはどうか。
【委員】
報告書は、青少年に関係する様々な方に配布すべきと考える。
【委員】
タイトルだけを見ると、誰がやるかがわかりにくい。
【議長】
「誰が」という主語をしっかりと表記する。全般的にそうしていきたい。
【委員】
欲をかいて、様々な世代にアプローチするのではなく、ターゲットをもっと絞るべきかと思う。そもそもの狙いを青年リーダーの育成とするなら、メインの対象は、小中学生になると思う。
【委員】
実際は、活動の場に参加する子は少ない。小中学生は、習い事に追われ、時間が少ない。そもそも全体数が非常に少なく、その中からリーダーを育てると言うのは困難。
【委員】

これをやったからリーダーが育つと言うことではなく、色々な活動の中から育っていくのだと思う。色々と見方を変えてみる。我々が見方を変えると違ってくるのではないか。

【委員】

たまに高校生が少年野球の活動に来て、子ども達と一緒に野球をやってくれる。またスポーツ少年団では年１回、高校生が小さい子どものたちの指導をして、教えてくれるとお互い楽しそうにしている。

【委員】

子どもさんの習い事は本当に多い。小さい項から、習い事が多いので、町会で催しものがあっても、なかなか参加出来ない子どもが多い。

【議長】

青少年育成協議会、青少年育成推進委員のことは新たに掲載したいと考えているので、もう少し章立てを練って、テーマ３の最後に入れたい。地域の大人による、地域の子どもの見守りをする育成組織ということで加えたい。

【委員】

青少年育成推進員が、どこまで力になれるのか。若い方がいない。推進員として活動できるのか。公民館の推薦だが、公民館も地域のことをどこまで把握しているのか分からない。

【青少年対策室】

平成 29 年度から、県の委嘱方法が個人から団体の委嘱に変わるので、青少年対策室としてもサポートしていきたい。カギになるのは、公民館だと思うので、室の方で一緒に作っていきたい。

【委員】

地域によっては、受け皿がまだまだ整っていないように感じる。

【委員】

実際に地域でやるには、会長が主となると思うが、取りあえず、形上、役職についているだけの人もいる。地域には色々な役職の依頼がきて、人探しをして人選をするだけで、目一杯な現状がある。だが、逆にできる地域もある。戸塚地区などは子ども会活動も盛んなので、マッチングするかもしれない。

【議長】

この報告書は、皆さんの魂がこもったものとして発信していきたい。今後、会長と事務局で精査して、順番など考えていきたい。また、別紙２の夢わーく事業の受け入れ報告は、この協議会での発言をきっかけに、委員同士の関わりによって実現できたことであり、この報告書に入れ込んでいきたいと考えるがいかがか。

＜異議なし＞

【議長】
　今後は、受け入れ会社である姉崎興業に話を聞きながら、会長と事務局で文言を検討していく。
【議長】
（2）その他
　皆様から何か意見等はあるか。
　　＜意見なし＞
【議長】
　以上で予定していた議題が終了したことから、議長の責を解かせていただく。

３．閉会

以上